



平成 27 年 1 月 15 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 F F R I
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 鶴 飼 裕 司
(コード番号：3692 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 最 高 財 務 責 任 者 田 中 重 樹
(TEL. 03-6277-1811)

個人向けセキュリティソフト
「FFRI プロアクティブ セキュリティ」の企業化に関するお知らせ

株式会社FFRI（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：鶴飼裕司、東証マザーズ上場：コード番号3692、以下「当社」）は、平成27年1月15日開催の取締役会において、個人向けセキュリティソフト「FFRI プロアクティブ セキュリティ」の企業化を決議しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 企業化に至るまでの経緯

近年の急激に増え続けるマルウェア（※1）による攻撃に対しては、従来のパターンマッチング型のアンチウイルスソフトだけでは対抗することが難しくなっています。

最近では、悪意の第三者により日々膨大な数のマルウェアが作りだされており、アンチウイルスソフトは、パターンファイルの作成及び配信が追いついていない状況です。

さらに、高度なサイバー攻撃に使用されるマルウェアは、アンチウイルスソフトでは検知されない（パターンファイルに登録されていない）未知のマルウェアが使用されているという現実もあります。

このような状況の中、当社は現在法人向けに販売している「FFR yarai」を個人向けにチューニングした、個人向けセキュリティソフト「FFRI プロアクティブ セキュリティ」の発売を決定いたしました。

2. 「FFRI プロアクティブ セキュリティ」の概要

(1) 概要

今までにないセキュリティ

FFRI プロアクティブ セキュリティは、従来のパターンマッチング型アンチウイルスソフトでは防御することが難しい「未知の脅威」（※2）に対抗するために開発された、これまでになくタイプのセキュリティソフトです。

近年、パソコンを取り巻くサイバー脅威は急速に高度化・複雑化してきており、「未知の脅威」を防御することなくしては、本当に意義のあるセキュリティを実現することはできません。

FFRI プロアクティブ セキュリティでは、従来のパターンマッチング技術の課題を抜本的に解決した「プログレッシブ・ヒューリスティック技術」を用いた多層防御構造の検出エンジンにより、様々な未知の脅威を防御します。

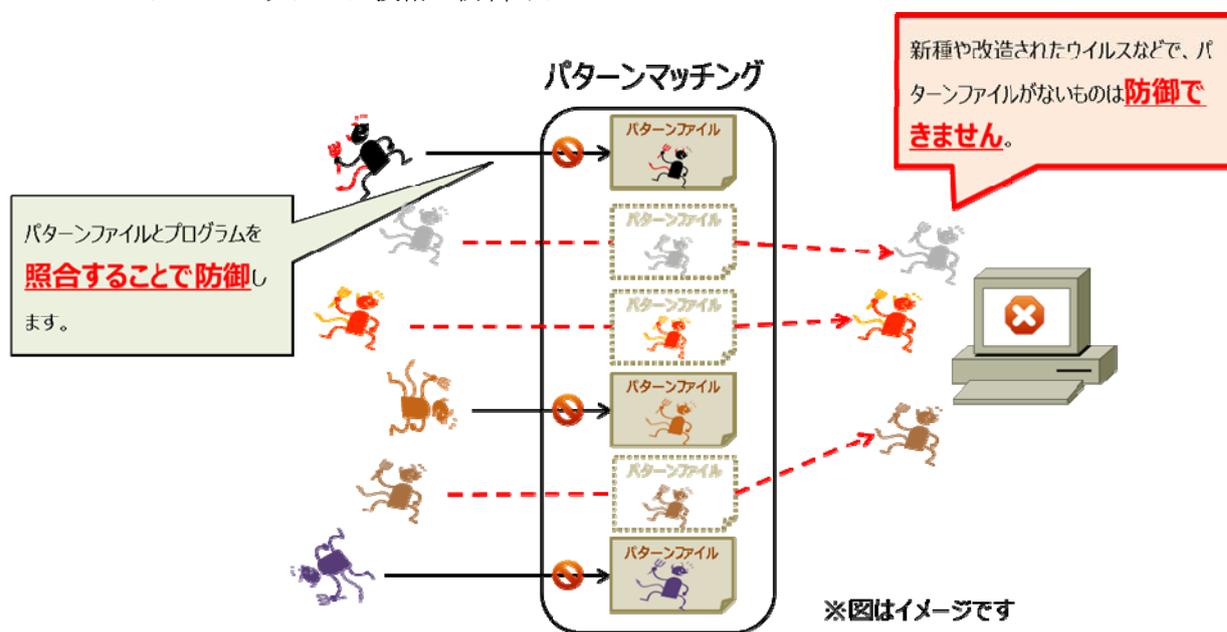
パターンマッチング技術について

検査対象のプログラムと、パターンファイル（マルウェアのデータベース）をマッチングすることでマルウェアを検知・防御する仕組みです。

パターンファイルは、アンチウイルスソフトベンダーが日々世界中からマルウェアを収集することでパターンファイルを作成し、ユーザーに配信しています。

マルウェアのパターンファイルを保持していなければ検知することができないため、新種や改造されたマルウェアは検知・防御することができません。

パターンマッチング技術の防御イメージ



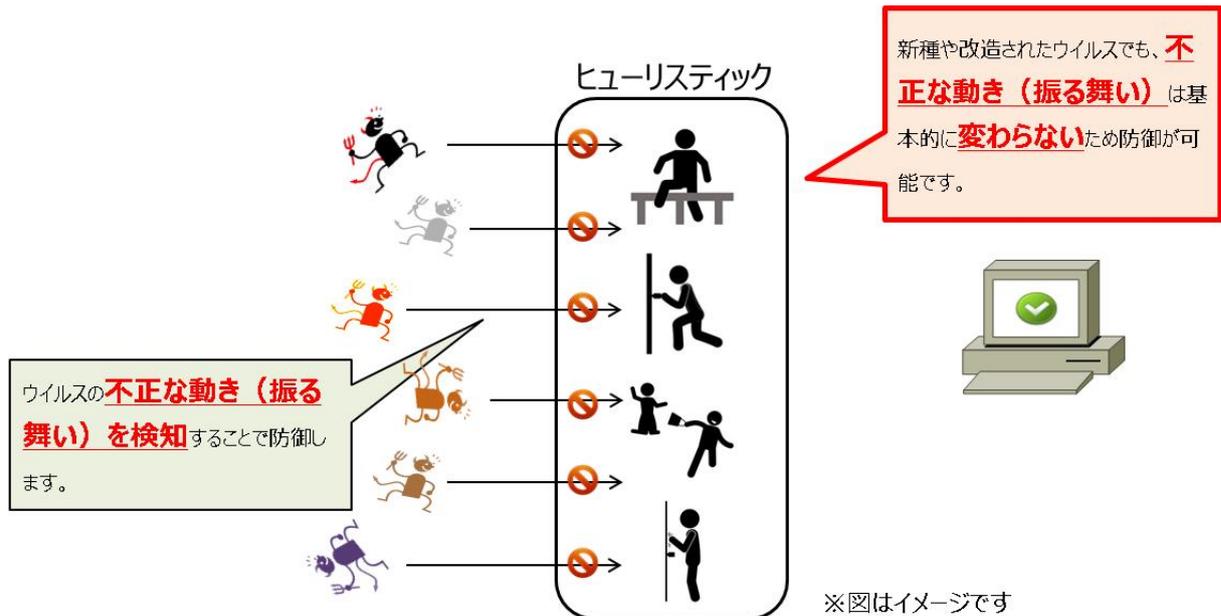
ヒューリスティック技術について

ヒューリスティック技術ではパターンファイルに全く依存しません。マルウェアの構造や振る舞いを見て、マルウェアに特徴的な「悪意」を分析することにより検知・防御する技術です。

これにより、パターンマッチング技術では防御が難しい新種や改造されたマルウェアであっても、マルウェアに共通する「悪意」を検知して防御することが可能です。

このように、ヒューリスティック技術はパターンファイルによる後追いの対策ではなく、未知の脅威に対しても有効なプロアクティブなセキュリティ対策を実現します。

ヒューリスティック技術の防御イメージ



プログレッシブ・ヒューリスティック技術で既知・未知のマルウェアを防御

FFRI プロアクティブ セキュリティでは、5つのヒューリスティックエンジンによるプログレッシブ・ヒューリスティック技術により、既知・未知のマルウェアを防御します。

単一的なアプローチによるヒューリスティック分析では、検知精度が不十分なために、本来検知すべきマルウェアを検知できなかつたり、正常なプログラムを誤検知してしまう懸念がありました。

FFRI プロアクティブ セキュリティは、攻撃者の思考を先回りした先進的な検知ロジックを搭載する5つのヒューリスティックエンジンで、検査対象のプログラムを多角的なアプローチで分析するプログレッシブ・ヒューリスティック技術により、既知・未知に関わらず、マルウェアを高精度に検知・防御します。

【FFRI プロアクティブ セキュリティのプログレッシブ・ヒューリスティック】



シンプルな機能・操作性

一般的なアンチウイルスソフトは、マルウェアを検知する機能を補完する様々な付随的機能（一例を挙げると「WEBサイトの安全評価」「迷惑メール対策」「ID/Password管理」等のマルウェア検知以外の機能）をまとめた統合型のセキュリティを提供しています。

一方、FFRI プロアクティブ セキュリティは、本来的に必要なマルウェア攻撃の防御機能に特化した製品であり、付随的な周辺機能は削ぎ落としました。セキュリティ機能を「プログレッシブ・ヒューリスティック技術」によるマルウェア検知エンジンにフォーカスすることで、高精度の防御性能とシンプルさの両立を実現しました。

FFRI プロアクティブ セキュリティは、誰にでも使いやすいセキュリティソフトです。

(2) 売上高への影響

「FFRI プロアクティブ セキュリティ」の販売開始は平成27年4月1日を予定しており、本件が当期の売上高に与える影響はありません。

また、現状の見通しに変化がある場合には速やかにお知らせいたします。

(3) 「FFRI プロアクティブ セキュリティ」の企業化のために支出する費用及びその内訳

本件のために特別に支出する費用は予定しておりませんが、今後発生が明らかになり、業績予想の修正が必要と判断された場合には速やかにお知らせいたします。

3. 「FFRI プロアクティブ セキュリティ」の企業化についての日程

取締役会決議日 平成27年1月15日
販売開始日 平成27年4月1日（予定）

- ※1 マルウェア コンピュータ・ウイルス、スパイウェアなど、悪意のある目的を持ったソフトウェアやプログラムのこと。
- ※2 未知の脅威 セキュリティベンダーに発見されていない脆弱性を突いた攻撃やマルウェアのこと。これらはOSのアップデートや、パターンマッチングをベースとしたアンチウイルスソフトだけでは防ぐことができない。近年のサイバー攻撃は、未知の脅威を用いるケースが多く見受けられ、新たな対策を講じる必要がある。

4. 「FFRI プロアクティブ セキュリティ」の企業化に関する今後の見通し

本件が当期の業績に与える影響はありません。また、来期以降に関しては、業績予想に織り込んで公表する予定です。

なお、「FFRI プロアクティブ セキュリティ」の発売に伴い、平成31年3月期には、平成26年3月期の売上高の10%相当額以上の売上を見込んでおります。

以 上

(参考) 当期業績予想（平成26年9月30日公表分）及び前期実績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
当期業績予想 (平成27年3月期)	863百万円	207百万円	192百万円	119百万円
前期実績 (平成26年3月期)	660百万円	171百万円	172百万円	115百万円